

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第 17 回運営委員会議事次第

- 1 日時：令和 6 年 11 月 28 日（木）13 時 30 分～14 時 45 分
- 2 場所：電子航法研究所 2 号棟 1 階 A 会議室 & オンライン（Web 会議システム Zoom）
- 3 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

- (1) 総会・運営委員会・幹事会の体制変更について……………資料 1
- (2) 2024 年度巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム（R7.2.28）について……………資料 2
- (3) 第 2 回キャリアマッチングデーについて……………資料 3
- (4) その他
・コンソーシアム入会検討機関について

【報告事項】

- (1) 第 1 回キャリアマッチングデー開催報告（R6.7.8）……………資料 4
- (2) 2024 年度シンポジウム開催報告（R6.10.18）……………資料 5
- (3) 第 28 回幹事会開催報告（R6.7.24）……………資料 6
- (4) 第 29 回幹事会開催報告（R6.10.18）……………資料 7
- (5) コンソーシアム Web サイトの改修について……………資料 8
- (6) その他

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

- (1) その他

【報告事項】

- (1) 協働大学院教員候補者の推薦について……………資料 9
- (2) 令和 6 年度実施入試（7 月期・8 月期）について
- (3) 「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム活動報告 Vol. 2」刊行について
- (4) その他

総会終了後、電子航法研究所の施設見学を予定（15:00-16:30、現地のみ）

（配布資料）

資料 1	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会・幹事会名簿……………	p.3
資料 2	2024 年度巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム企画（案）……………	p.6
資料 3	第 2 回キャリアマッチングデーについて（案）……………	p.8
資料 4	第 1 回キャリアマッチングデー開催報告……………	p.11
資料 5	2024 年度 R2EC シンポジウム開催報告……………	p.13
資料 6	第 28 回幹事会議事要旨……………	p.23
資料 7	第 29 回幹事会議事要旨……………	p.25
資料 8	コンソーシアム Web サイト トップページデザイン・サイトマップ（案）……………	p.27
資料 9	協働大学院教員候補者の推薦について……………	p.29

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第17回運営委員会 出席者名簿

(敬称略、網掛けは欠席)

機関	委員	出欠	委員代理	出欠	陪席者	出欠
セコム	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー 甘利 康文	出席			IS研究所 研究企画推進部 主務 小松原 康弘	出席
日本電気	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員 柳生 智彦	欠席				
東急プロパティマネジメント	BC推進センター センター長 狩矢 淳雅	欠席				
NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画部 部長 秋山 一也	出席 (Zoom)			レジリエント環境適応研究 プロジェクト 主任研究員 小山 晃	出席 (Zoom)
東京海上日動火災保険	アドバイザー 林 春男	出席				
東急総合研究所	研究部 主任研究員 真城 源学	出席 (Zoom)			主任研究員 市村 健一	出席 (Zoom)
DRIジャパン	理事長 長瀬 貫隆	出席 (Zoom)			理事 真城 源学	出席 (Zoom)
電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当 スタッフ 上席 星川 英	欠席				
日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員 安部 原也	出席 (Zoom)				
電子航法研究所	特別研究主幹 福島 幸子	出席				
産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 領域長補佐 兼務 エネルギー・環境領域連携推進室 室長 玄地 裕	欠席	人間情報インタラクション研究部門 人間行動研究グループ 佐藤 稔久	出席 (Zoom)		
防災科学技術研究所	理事長 寶 馨	出席			企画部 部長 松室 寛治	出席
労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長代理 山際 謙太	欠席	機械システム安全研究グループ 上席研究員 岡部 康平	出席 (Zoom)		
國家災害防救科技中心 (NCDR) (台湾)	Secretary General Wei-Sen Li	出席 (Zoom)				
筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長 遠藤 靖典	出席			システム情報エリア支援室 大学院教務 係員 酒井 美和	出席
	システム情報系 教授 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー 岡島 敬一	出席			システム情報エリア支援室 UEA 根本 美南	出席

〔令和6年10月18日版〕

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会委員名簿

氏 名	機 関 名	所属・職名	選出区分
甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
柳生 智彦	日本電気株式会社	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
狩矢 淳雅	東急プロパティマネジメント株式 会社	B C 推進センター センター長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
秋山 一也	NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画部 部長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン	理事長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
星川 英	一般財団法人電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
安部 原也	一般財団法人日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航 空技術研究所 電子航法研究所	特別研究主幹	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
玄地 裕	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 領域長補佐 兼務 エネルギー・環境領域連携推進室 室長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
◎ 寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
山際 謙太	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長代理	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction	Secretary General	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位 プログラムリーダー	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）

◎は議長を示す

（参考）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- （1）正会員の代表者
- （2）その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- （1）正会員の代表者
- （2）その他、会長が指名する者

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会陪席者名簿〔令和6年10月18日版〕

氏 名	機 関 名	所属・職名	選出区分
小松原 康弘	セコム株式会社	IS研究所 研究企画推進部 主務	陪席者
松本 幸一	東急プロパティマネジメント株式会社	BC推進センター 次長	陪席者
大野 洋一	東急プロパティマネジメント株式会社	BC推進センター 課長代理	陪席者
小山 晃	NTT宇宙環境エネルギー研究所	レジリエント環境適応研究プロジェクト 主任研究員	陪席者
柴崎 紘基	東京海上日動火災保険株式会社	dX推進部 BD室	陪席者
市村 健一	株式会社東急総合研究所	研究部 主任研究員	陪席者
真城 源学	一般財団法人DRIジャパン	理事	陪席者
舟橋 卓	一般財団法人電力中央研究所	企画グループ 主任	陪席者
山本 博巳	一般財団法人電力中央研究所	グリッドイノベーション研究本部ENIC研究 部門 上席研究員	陪席者
頭士 泰之	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域研究企画室 企画主幹	陪席者
松室 寛治	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部 部長	陪席者
松本 拓巳	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部 次長	陪席者
倉谷 定秋	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部研究推進課 課長	陪席者
田代 麻耶	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部研究推進課 係長	陪席者
岡部 康平	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 上席研究員	陪席者
大貫 康司	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 室長	陪席者
増田 正裕	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 主幹	陪席者
栗原 宏太	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 大学院教務 係長	陪席者
酒井 美和	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 大学院教務 係員	陪席者
根本 美南	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 エデュケー ション・アドミニストレーター（UEA）	陪席者

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム幹事会委員名簿

◎	氏 名	機 関 名	所属・職名	選出区分
	寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第 1 0 条第 4 項（1）
	甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第 1 0 条第 4 項（2）
	遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第 1 0 条第 4 項（2）
	岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー	第 1 0 条第 4 項（4）

◎は議長を示す

オブザーバー名簿

氏 名	機 関 名	所属・職名	選出区分
林 春男	東京海上日動火災保険株式会社	dx推進部 アドバイザー	オブザーバー

陪席者名簿

氏 名	機 関 名	所属・職名	選出区分
小松原 康弘	セコム株式会社	研究企画推進部 主務	陪席者
松室 寛治	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部 部長	陪席者
松本 拓巳	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部 次長	陪席者
倉谷 定秋	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部研究推進課 課長	陪席者
田代 麻弥	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	企画部研究推進課 係長	陪席者
大貫 康司	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 室長	陪席者
増田 正裕	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 主幹	陪席者
栗原 宏太	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 大学院教務 係長	陪席者
酒井 美和	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 大学院教務 係員	陪席者
根本 美南	国立大学法人筑波大学	システム情報エリア支援室 エデュケー ション・アドミニストレーター（UEA）	陪席者

（参考）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第 1 0 条第 4 項 幹事会は、次の委員で構成する。

- （1）会長
- （2）副会長 2 名
- （3）正会員の中から互選により選出する委員 若干名
- （4）リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー
- （5）その他、会長が指名する者 若干名

2024 年度巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム企画案
「スマートシティと防災 レジリエントな都市のデザイナー」

- 日時：2025 年 2 月 28 日（金）14:00-16:30
- 場所：関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE ホール <https://kandai-merise.jp/access/>
- 形式：原則対面（簡易オンライン配信あり）
- 趣旨：

近年、AI や IoT（モノのインターネット）などのデジタル技術革新により、都市の防災能力は飛躍的に向上する可能性を秘めています。スマートシティとは、通信インフラ、エネルギー管理、交通網などを高度に連携させ、市民生活の利便性と安全性を最大限に引き出す都市構造を指します。スマートシティは、地方都市の存続や日常生活の高度化などに主軸が置かれ、必ずしも防災・減災を中心には考えられていません。特に自然災害の多発する日本においては、スマートシティに日常の高度化と防災・減災力向上の両立が求められ、テクノロジーを活用した防災・減災がますます重要視されています。

本シンポジウムでは、「スマートシティと防災」をテーマに、福島での東日本大震災後の復興、令和 6 年能登半島地震後の対応状況にも触れながら、最新の技術と地域社会の連携による防災とスマートシティの関わり方を議論します。さらに、都市の形成を担う市民一人ひとりの防災意識の向上を含む持続可能な防災体制のあり方にも焦点を当て、地域社会全体で災害に強いレジリエントな都市を目指すための具体的な姿を探求します。

➤ プログラム（案）

総合司会：井ノ口 宗成 氏（巨大災害研究会 事務局長／富山大学 都市デザイン学部 准教授）

14:00	開会挨拶（5 分） 寶 馨 氏（R2EC 会長／防災科学技術研究所 理事長） ※ビデオメッセージを予定	
第 1 部：講演		
14:05	基調講演 （30 分）	「大学・国研連携型スーパーサイエンスシティの挑戦」 鈴木 健嗣 氏（筑波大学 システム情報系 教授／つくば市 顧問）
14:35	話題提供① （20 分）	「東日本大震災とその教訓から考える大規模災害対策」 関谷 直也 氏（福島国際研究教育機構（F-REI）客員上席研究員／東京大学 大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授）
14:55	話題提供② （20 分）	「令和 6 年能登半島地震を経験した富山市の取り組み紹介 ～コンパクト シティと防災～」 児島 誠 氏（富山市 防災危機管理課 主幹）
15:15	休憩（15 分）	
第 2 部：パネルディスカッション		
15:30	パネルディスカッション「スマートシティと防災」（55 分） 【登壇者】鈴木 健嗣 氏／関谷 直也 氏／児島 誠 氏 木村 玲欧 氏（巨大災害研究会 会長／兵庫県立大学 教授） 防災科学技術研究所（調整中） 【コーディネーター】遠藤 靖典 氏（R2EC 副会長／巨大災害研究会 副会長／筑波大学）	
16:25	閉会挨拶（5 分） 木村 玲欧 氏（巨大災害研究会 会長／兵庫県立大学 教授）	

「スマートシティと防災」

－レジリエントな都市のデザイン－

2025年2月28日(金) 14:00-16:30

会場 関西大学梅田キャンパスKANDAI Me RISEホール
〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1番5号
<https://kandai-merise.jp/access/>

形式 原則対面(簡易オンライン配信あり)

近年、AIやIoT(モノのインターネット)などのデジタル技術革新により、都市の防災能力は飛躍的に向上する可能性を秘めています。スマートシティとは、通信インフラ、エネルギー管理、交通網などを高度に連携させ、市民生活の利便性と安全性を最大限に引き出す都市構造を指します。スマートシティは、地方都市の存続や日常生活の高度化などに主軸が置かれ、必ずしも防災・減災を中心には考えられていません。特に自然災害の多発する日本においては、スマートシティに日常の高度化と防災・減災力向上の両立が求められ、テクノロジーを活用した防災・減災がますます重要視されています。

本シンポジウムでは、「スマートシティと防災」をテーマに、福島での東日本大震災後の復興、令和6年能登半島地震後の対応状況にも触れながら、最新の技術と地域社会の連携による防災とスマートシティの関わり方を議論します。さらに、都市の形成を担う市民一人ひとりの防災意識の向上を含む持続可能な防災体制のあり方にも焦点を当て、地域社会全体で災害に強いレジリエントな都市を目指すための具体的な姿を探索します。

参加無料

お申込みはこちらから
<https://forms.gle/sFLQ8t1JrZA3vZ588>

申込締切

2025
2/25(火)



プログラム

総司会：井ノ口 宗成 氏 巨大災害研究会 事務局長／富山大学 都市デザイン学部 准教授

開会挨拶

14:00～14:05 寶 馨 氏 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム会長／防災科学技術研究所 理事長

第1部：講演

14:05～14:35 「大学・国研連携型スーパーサイエンスシティの挑戦」

基調講演

鈴木 健嗣 氏
筑波大学 システム情報系 教授／つくば市 顧問

14:35～14:55 「東日本大震災とその教訓から考える大規模災害対策」

話題提供 ①

関谷 直也 氏
福島国際研究教育機構(F-REI) 客員上席研究員／東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長・教授

14:55～15:15 「令和6年能登半島地震を経験した富山市の取り組み紹介 ～コンパクトシティと防災～」

話題提供 ②

児島 誠 氏
富山市 防災危機管理課 主幹

15:15～15:30 休憩

第2部：パネルディスカッション

15:30～16:25 「スマートシティと防災」

【登壇者】

鈴木 健嗣 氏／関谷 直也 氏／児島 誠 氏

木村 玲欧 氏
巨大災害研究会 会長／兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授

〇〇 〇〇 氏
防災科学技術研究所 〇〇〇〇

【コーディネーター】

遠藤 靖典 氏
レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 副会長／巨大災害研究会 副会長／筑波大学 システム情報系 教授

閉会挨拶

16:25～16:30 木村 玲欧 氏
巨大災害研究会 会長／兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授



筑波大学
鈴木 健嗣 氏



東京大学
関谷 直也 氏



富山市
児島 誠 氏



兵庫県立大学
木村 玲欧 氏



〇〇〇〇 〇〇
〇〇 〇〇 氏



筑波大学
遠藤 靖典 氏

令和 6 年 11 月 28 日

第 2 回キャリアマッチングデーについて（案）

本コンソーシアムでは、今年度より、参画機関と筑波大学の優秀な学生のインターンシップや就職等のマッチング支援を目的としたイベント「キャリアマッチングデー」を開催しております。（※第 1 回目開催の様子はこちら：<https://r2ec.jp/news/2830/>）

コンソーシアム参画機関への事前アンケート結果（別紙）に基づき、第 2 回の開催について以下のとおり提案いたしますので、ご審議をお願いいたします。

【開催概要】

- ・主催：レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
- ・共催：筑波大学
- ・実施時期：令和 7 年 6 月頃
- ・実施場所：筑波大学 筑波キャンパス内
- ・参加対象：（機関）コンソーシアム参画機関、及びその関連会社
（学生）システム情報工学研究群の学生を中心とした全大学院生、及び学類生

【今後のスケジュール】

（令和 6 年）

- ・12 月 ：実施日の調整・決定

（令和 7 年）

- ・1～2 月：参加機関募集（第 1 次）
- ・4 月頃 ：参加機関募集（第 2 次）
- ・4～6 月：参加学生募集
- ・6 月頃 ：実施

参画機関への事前アンケート結果〔1〕

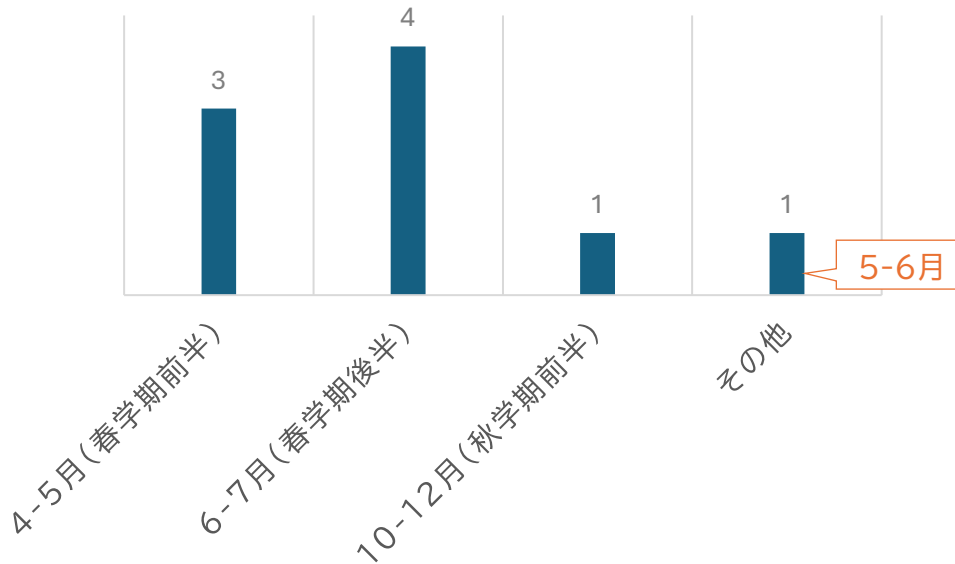
別紙(資料3関連)

実施期間:2024年10月22日~11月22日

実施対象:レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに参画する13機関

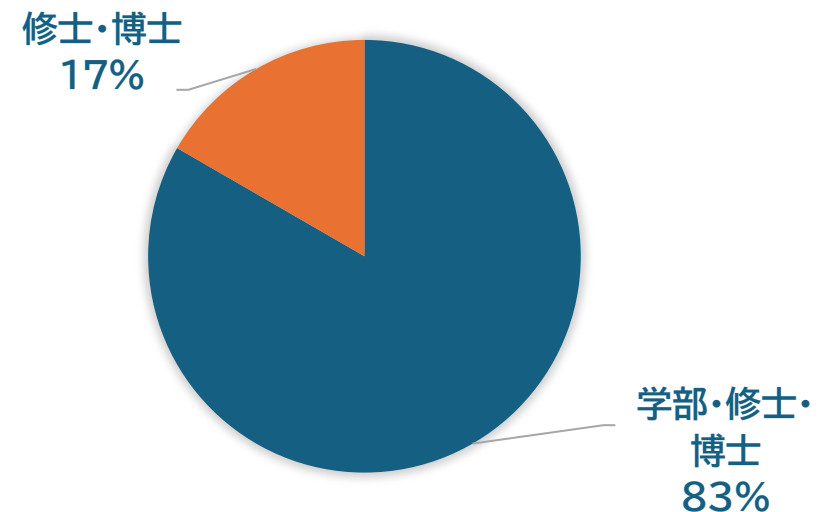
回答数:6機関 ※「新卒採用活動を行っていない」等の回答をいただいた機関を除く

(1) 実施を希望する時期 (複数回答可)



➡ 6-7月の開催希望がトップ。次点で4-5月。「その他」として5-6月の希望あり。

(2) マッチングを希望する学生の課程



➡ 多くの機関が、学生の所属課程は問わないと回答。

参画機関への事前アンケート結果〔2〕

実施期間:2024年10月22日～11月22日

実施対象:レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに参画する13機関

回答数:6機関 ※「新卒採用活動を行っていない」等の回答をいただいた機関を除く

(3) 本イベント開催に関するご意見・ご要望（一部抜粋、加工済）

- 開催時期を4－5月、6－7月と回答したが、5月下旬から6月下旬の間くらいを希望。秋学期など遅い時期になりそうであれば4年生とのマッチングも希望。
- 前回は非常に有意義な機会だったと感じており、次回以降の開催も希望する。また、関連会社も本イベント参加を希望しており、可能であれば次回以降ともに参加したい。
- 多くの学生に研究所を紹介する機会をいただけて、大変ありがたかった。夏の研究体験デーや春の採用活動にマッチする時期に開催いただけるとありがたい。半年くらい前には開催日程を教えていただけると対応しやすい。

筑波大学×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー 開催報告

以下のとおり開催いたしましたので、ご報告いたします。

1. 日 時 2024 年 7 月 8 日（月）13:30-16:00
2. 場 所 筑波大学第 3 エリア プレゼンテーションルーム（3B213）
3. 参加者

◆ 企業・研究所（6 機関） 18 名

- ・セコム株式会社
- ・日本電信電話株式会社（NTT R&D）
- ・国立研究開発法人 産業技術総合研究所
- ・国立研究開発法人 電子航法研究所
- ・国立研究開発法人 防災科学技術研究所
- ・一般財団法人 日本自動車研究所

◆ 筑波大学学生 52 名
（内訳）

大学院生 42 名

- ・リスク・レジリエンス工学学位プログラム：29 名（M1…19 名、M2…8 名、D3…2 名）
- ・情報理工学位プログラム：4 名（M1…1 名、M2…1 名、D2…2 名）
- ・知能機能システム学位プログラム：4 名（M1…3 名、D1…1 名）
- ・構造エネルギー工学学位プログラム：3 名（M1…2 名、D1…1 名）
- ・社会工学学位プログラム：1 名（M1…1 名）
- ・生物学学位プログラム：1 名（M1…1 名）

学類生 10 名

- ・工学システム学類：6 名（4 年次…6 名）
- ・情報科学類：3 名（3 年次…1 名、4 年次…2 名）
- ・地球学類：1 名（1 年次…1 名）

4. プログラム

第 1 部：全体セッション（13:30-15:00）

全体セッションでは、まず、筑波大学システム情報工学研究群長でレジリエンス研究教育推進コンソーシアム副会長の遠藤靖典教授より挨拶があった。

続いて、「各機関からの情報提供」として、今回参加した 6 つの企業・研究所より、所属機関の紹介、並びにインターンシップ・就職情報の提供があった。



全体セッションの様子①



全体セッションの様子②

第2部：個別相談カフェ（15:00-16:00）

個別相談カフェでは、各機関のブースに分かれ、カジュアルな雰囲気の中で名刺交換やインターンシップ・就職相談等が行われた。



個別相談の様子：セコム



個別相談の様子：NTT R&D



個別相談の様子：産業技術総合研究所



個別相談の様子：防災科学技術研究所



個別相談の様子：電子航法研究所



個別相談の様子：日本自動車研究所

5. 総括

全体セッションの参加学生数は50名を超え、個別相談でも学生が各ブースを回って熱心に質問する姿が随所で見られるなど、盛況となった。参加いただいた企業・研究所の皆様にご礼申し上げたい。

学生からは、短時間で様々な機関の情報が得られたこと、今まで知らなかった機関を知ることができたこと、フランクな交流の場が設けられていたことなどに対してポジティブな意見があった。

企業・研究所からも次回開催を望む声をいただいた。今回得られた意見を活かし、次回はより多くの機関や学生が参加できるように企画の早期検討を進めたい。

以上

2024 年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム
「博士人材の活用を再考する：産学協働で描くイノベーター育成の道」開催報告

1. はじめに

2024 年 10 月 18 日、2024 年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム「博士人材の活用を再考する：産学協働で描くイノベーター育成の道」が秋葉原コンベンションホール（東京都千代田区）にて開催されました。



日本自動車研・安部氏

本シンポジウムは筑波大学の共催、20 の学会等の後援により開催され、当日は大学、企業、研究機関等から 51 名の参加がありました。

シンポジウムは、総合司会の安部原也氏（日本自動車研究所 主任研究員／筑波大学教授（協働大学院））の進行のもと、3 本の講演とパネルディスカッションにより構成されました。

2. 第 1 部 講演

コンソーシアム会長の寶馨氏（防災科学技術研究所 理事長）の開会挨拶により開幕し、第 1 部では産官学のそれぞれの立場から、博士人材の活躍に向けた受け入れや送り出しに係る最新動向が共有されました。



防災科研・寶氏

■「博士人材の活躍に向けた政策動向（官の視点）」

高見英樹氏（文部科学省高等教育局 企画官(併)高等教育政策室長）



まずは文部科学省の高見氏より、同省が今年 3 月に策定した「博士人材活躍プラン～博士をとろう～」の意義や具体的内容を解説いただきました。

プラン策定の背景として、学生が経済的理由や就職先の不安から博士課程進学を控える傾向にあることが指摘され、産業界との連携による多様なキャリアパスの開拓、大学院教育の質の向上、学生本人への動機付けの 3 つのフェーズにおける具体的取組みが紹介されました。また、具体的数値目標として、2040 年までに人口 100 万人あたりの博士号取得者数を世界トップレベル（2020 年度比約 3 倍）に引き上げることが示されました。

■「博士人材の採用と活用（企業の視点）」前田裕二氏（NTT 宇宙環境エネルギー研究所 所長）

続いて、NTT の前田氏より、同社が開発中心から研究中心にシフトチェンジする流れの中で、社内で博士人材がどのように活躍しているかの話題提供がありました。

同社では、2019 年発表の「IOWN 構想（光を中心とした高速大容量通信と膨大な計算リソースを提供する次世代ネットワーク・情報処理基盤）」を契機に、従前の開発中心から研究中心へのシフトが図られ、研究の質の向上のため博士人材が果たす役割が大きくなっており、社員の博士号取得も積極的に支援しているとの説明がありました。



■「博士人材の育成と送り出し（大学の視点）」遠藤靖典氏（筑波大学 教授 システム情報工学研究群長）



最後に大学の立場として、筑波大学の遠藤氏より話題提供がありました。

システム情報工学研究群を事例に、課題として学生の修士から博士課程への内部進学率の低さや、博士課程修了者の就職先が特定の業種に偏向している状況の説明があり、これらの課題に対応するための方策の一つとして取り組む「協働大学院方式」によるリスク・レジリエンス工学学位プログラムの紹介がありました。協働大学院方式は産学のコンソーシアムが協働してプログラムを運営し、出口を見据えた人材育成を行っていることが特徴として挙げられました。

3. 第2部 パネルディスカッション「博士人材の活用を再考する」

第2部では、岡島敬一氏（筑波大学 教授 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー）の進行のもと、第1部登壇者に加え、社会人学生として筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムで博士号を取得した真城源学氏（東急総合研究所）をパネリストに迎えディスカッションが行われました。



文科省・高見氏



NTT・前田氏



東急総研・真城氏



筑波大学・遠藤氏



筑波大学・岡島氏

主な論点：

- ・博士人材の有用性の言語化と風土づくり：産業界の意識改革、大学院教育改革、若い世代の動機付けなどを通じて、博士人材の価値を社会全体で認識し、時間をかけて意識を変えていくことが必要。
- ・博士の汎用的能力と国際競争力：難しい意思決定やリーダーシップが求められる場面など、博士人材が持つ高度な汎用的能力が企業経営や国際競争力に寄与することを広く周知していくことが必要。
- ・優秀な人材の海外流出：フロンティア精神を持つ日本人学生が海外に流出している。海外で研鑽を積んだ彼らが日本に戻ってきて、日本の高等教育や社会を変えていく存在になるような道筋も必要。
- ・博士が身近にいる環境づくり：学部生段階、さらに初等・中等教育段階から、探求型、課題解決型の学びを深めるとともに、博士との接点を持つ環境を整えることが重要。

最後に、コンソーシアム副会長の甘利康文氏（セコム IS 研究所 グループリーダー）より閉会挨拶をいただき、盛況のうちに会が締めくくられました。



セコム・甘利氏

4. おわりに

今回は、コロナ禍以来、久しぶりに対面のみの開催となりました。終了後のアンケートでは、自由記述式の設問にも熱心な回答があり、会場の質疑応答の時間を増やしてほしいとの意見が複数見られたことから、参加者の関心度の高さが伺えました。産学官の人事やマネジメントに関わる幅広い方々に、コンソーシアムや学位プログラムの活動を周知できたことも大きな成果となりました。

2024年度レジリエンス研究教育
推進コンソーシアムシンポジウム

アンケート結果



No.	項目	内容
1	シンポジウム実施日時	2024年10月18日(金) 14:00-16:30
2	シンポジウム実施方法	オンサイト（秋葉原コンベンションホール）
3	シンポジウム参加者数	52名
4	アンケート実施方法	紙を配布
5	アンケート回答期間	2024年10月18日
6	アンケート回答者数	35名（回収率：67.3%）
7	アンケート質問項目	次頁参照

2024年度レジリエンス研究教育推進コンソーシアムシンポジウム

博士人材の活用を再考する…
産学協働で描く
イノベーター育成の道

日本では「若者の博士離れ」が叫ばれる中、産官学がそれぞれ博士人材の処遇改善や活用推進に取り組んでいますが、まだまだ博士がイノベーションの担い手として広く活躍できる社会とは言い切れないのが現状ではないでしょうか。
本シンポジウムでは、産官学がUnder-one-roofで博士人材に対する期待や課題について議論し、ともに博士を育み、活かすことのできる社会のあり方について考えます。また、筑波大学独自の「協働大学院方式」による博士人材育成の事例も紹介し、その魅力や課題も深掘りします。
ご所属を問わず、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時 令和6年10月18日(金) 14:00-16:30
会場 秋葉原コンベンションホール
(東京都千代田区外神田1-18-13) ※ JR秋葉原駅(電気街口)徒歩1分

参加方法 参加無料／登録はこちら ▶
<https://r2ec.jp/news/2863/>
(10/15(火)まで)

定員 先着90名

参加者 どなたでもご参加いただけます
特に企業の人事担当者・マネジメント層、大学関係者、政府関係者、メディア関係者など

プログラム

14:00-14:05	開会挨拶	～ 主催者挨拶・趣旨説明 ～ 国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長 賀 馨 (コンソーシアム会長)
14:05-14:25	基調講演	【博士人材の活躍に向けた政策動向（官の視点）】 文部科学省高等教育課 企画官(併)高等教育政策室長 高見 英樹
14:25-14:45	話題提供 ①	【博士人材の採用と活用（企業の視点）】 NTT宇宙環境エネルギー研究所 所長 前田 裕二
14:45-15:05	話題提供 ②	【博士人材の育成と送り出し（大学の視点）】 筑波大学システム情報系 教授、システム情報工学研究部長 遠藤 靖典 (コンソーシアム副会長)
15:05-15:30	コーヒーブレイク	
15:30-16:25	パネルディスカッション	【博士人材の活用を再考する】 文部科学省高等教育課 企画官(併)高等教育政策室長 高見 英樹 NTT宇宙環境エネルギー研究所 所長 前田 裕二 株式会社東急総合研究所 研究部 主任研究員 真城 源孝 筑波大学システム情報系 教授 遠藤 靖典 筑波大学システム情報系 教授、リスクレジリエンス工学部プログラムリーダー 岡島 敬一 (モデレーター)
16:25-16:30	閉会挨拶	～ 振り返りと今後の展望 ～ セコム株式会社IS研究所 甘利 康文 (コンソーシアム副会長)

主催 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
Resilience Research and Education Promotion Consortium

共催 筑波大学
University of Tsukuba

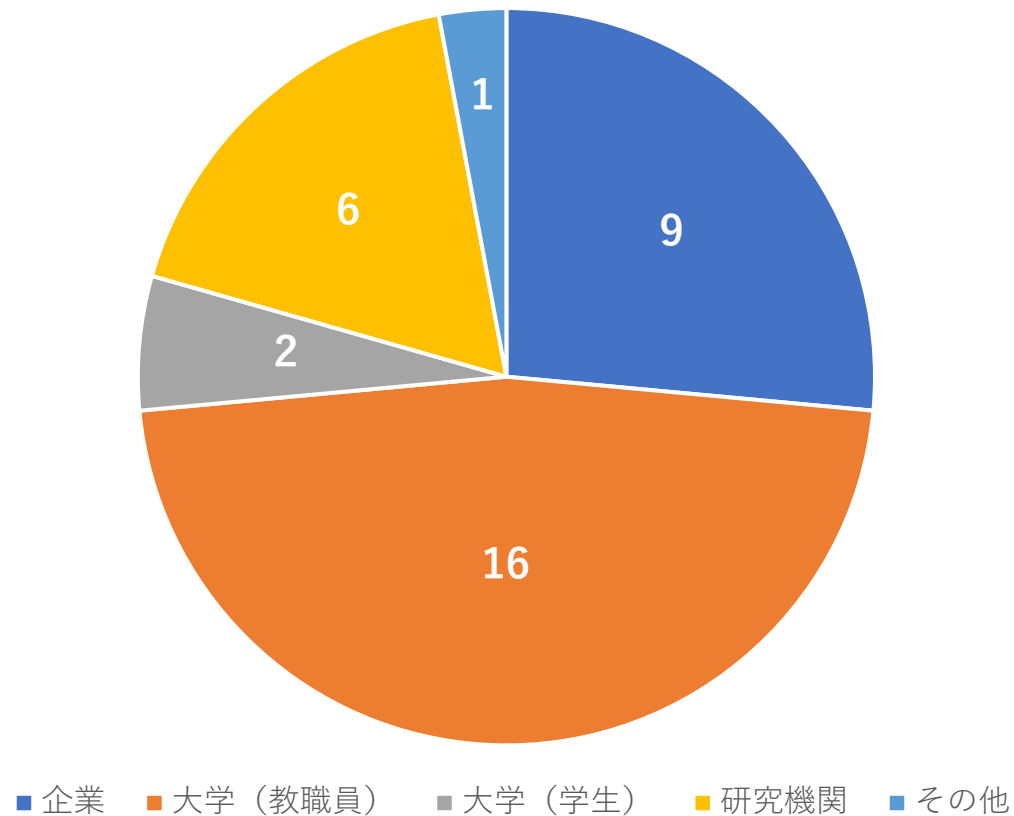
問い合わせ先 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局
(筑波大学システム情報系エリア支援室)
r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp

No.	分類	内容
1	所属機関	Q1. ご自身の所属機関等について教えてください。
2	シンポジウム認知経路	Q2. シンポジウムをどの媒体で知りましたか。
3	満足度（※）	Q3. 基調講演「博士人材の活躍に向けた政策動向（官の視点）」（講演者：高見英樹氏）について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
4		Q4. 話題提供①「博士人材の採用と活用（企業の視点）」（講演者：前田裕二氏）について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
5		Q5. 話題提供②「博士人材の育成と送り出し（大学の視点）」（講演者：遠藤靖典氏）について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
6		Q6. パネルディスカッション「博士人材の活用を再考する」について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。
7	全体を通しての意見・感想 （自由記述）	Q7. シンポジウム全体を通して最も興味深かったテーマやキーワード、または本シンポジウムについてのご意見・ご感想がございましたらご記入ください。

（※）「大いに役立つ」「まあまあ役立つ」「どちらとも言えない」「あまり役立たない」「まったく役立たない」の5段階評価

Q1. ご自身の所属機関について教えてください。

〈回答数34〉

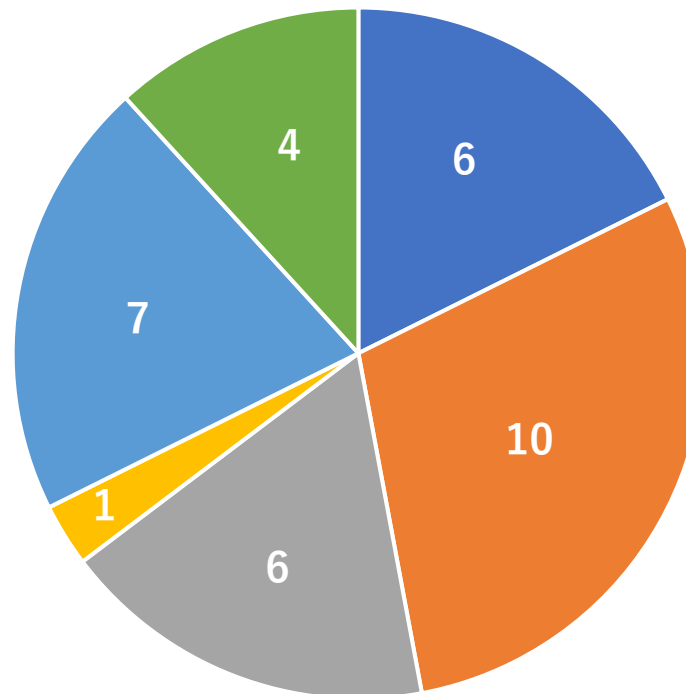


集計結果

最も回答数が多かったのが「大学（教職員）」16件、次いで「企業」9件

Q2. シンポジウムをどの媒体で知りましたか。

〈回答数34〉



- 主催コンソーシアムのWebサイトを見て
- 職場の上司や同僚からの案内で
- 筑波大学の学内サイト・メーリングリストを見て
- 「防災ログ」メルマガを見て
- 主催コンソーシアム参画機関宛ての案内で
- その他

集計結果

最も回答数が多かったのが「職場の上司や同僚からの案内で」10件、次いで「主催コンソーシアム参画機関宛ての案内で」7件。
また、「その他」4件のうち、3件が筑波大学が参画するC-ENGINE（産学協働イノベーション人材育成協議会）の案内によるもの。

Q3. 基調講演「博士人材の活躍に向けた政策動向（官の視点）」（講演者：高見英樹氏）について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。〈回答数35〉



Q4. 話題提供①「博士人材の採用と活用（企業の視点）」（講演者：前田裕二氏）について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。〈回答数35〉



Q5. 話題提供②「博士人材の育成と送り出し（大学の視点）」（講演者：遠藤靖典氏）について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。〈回答数35〉



Q6. パネルディスカッション「博士人材の活用を再考する」について、自身の活動や業務に役立つ内容でしたか。〈回答数31〉



■ 大いに役立つ ■ まあまあ役立つ ■ どちらとも言えない ■ あまり役立たない ■ まったく役立たない

集計結果

全ての項目において、「大いに役立つ」+「まあまあ役立つ」が8割を超えている

（※）「大いに役立つ」「まあまあ役立つ」「どちらとも言えない」「あまり役立たない」「まったく役立たない」の5段階評価

Q7. シンポジウム全体を通して最も興味深かったテーマやキーワード、または本シンポジウムについてのご意見・ご感想がございましたらご記入ください。〈回答数19〉

- 有意義なシンポジウムでした
- 博士人材の産業界での議論が少なかったのが残念（問題の大半がここにあると思う）。筑波大は具体的な情報を発信されていてよかった。
- 隗より始めよの文科省が自ら仰っておられましたが、最も定量的に開示される博士号取得者の初任給が年で+5万円程度の価値付けである以上、経済合理上学費回収に約40年かかる訳ですから、増えません。真城さんと息子さんとの会話の通りです。
- パネルディスカッションの冒頭、「知の総和＝人口×能力」で人口へるので能力をあげていくとの話があったが、会社で採用の仕事をしていると能力（単に成績が良いとか悪いじゃなく総合的な人間力という意味です。）はむしろ落ちているのではないかと感じるが、どう能力upするのか？
- 風土というあいまいなものに期待するのは若干はがゆいかんじがします。→ 国家公務員として博士採用に目標値を設定するなどして、政策立案に博士の力を発揮してもらってはどうか？特に人社系の力を活用してはどうか？と考えます。博士の優秀性を国が利用しないのがふしぎです。
- 提示された話題が博士人材の価値の言語化に至り、それが産学官の課題であることが共有できたのは、とても有意義だと思う。Q&Aがもっとほしかった。
- 博士が周囲に（身近に）いる環境をつくり、博士をとることが当たり前な風土を醸成していくことが重要と感じた。博士のイメージ・思い込みを変えていくには長い時間が必要かもしれない。
- 学生の視点から議論することもできます。

Q7. シンポジウム全体を通して最も興味深かったテーマやキーワード、または本シンポジウムについてのご意見・ご感想がございましたらご記入ください。〈回答数19〉

- “博士の有用性の言語化”、それが根拠をもって社会に示せることが重要と思いました。
- 「博士人材活躍プラン」「人を巻き込むバイタリティ」
- 今後、様々なユースケース（博士取得の学生・修了生）のお話をもっとお聞きしてみたい。
- 今回のテーマに関連した文部科学省からの情報として、研究環境の改善（研究者の研究時間減少）もあって、博士号を選択せず、就職を求める学生もいるのではと考えました。一方で、上昇傾向にはありますが、大学進学率は57.7%ですので、大学への進学を伝えていく、無償化こそが直結する施策では、とも考えます。
- 博士人材の育成と活用の低さが課題となっているのは過去からの課題であり、このような課題に対して国（文科省）としての取り組みと産業界（経団連）の理解が深まっていくことを期待します。
- リスク・レジリエンス分野で博士の活躍に関する具体例を知りたくなりました⇒修士では不十分なのか？博士だからできたことなど・・・
- ありがとうございます。起業できるような技術を自分の研究室で教えないといけないとわかったので努力したい。
- 社会が求める人物像
- 博士人材に対する受け入れ側の対応（専門を活かした研究ができる組織であるとのアピール）も重要かと思いました。引き続きよろしくお願いいたします。
- 「博士は使えない」と感じている企業のパネラーが不在。お花畑のコメントだらけ。現実を知らない？企業で働けないパーソナリティーの教員が、大学でどうやって人材を育てる？
- 会場との意見交換する時間が少ない。閉会あい22つは星5つ

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第28回幹事会議事要旨

- 1 日 時：令和6年7月24日（水）13時30分～14時00分
- 2 場 所：オンライン（Zoom）
- 3 出席者：寶（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、大貫（石濱委員代理）
オブザーバー：林（東京海上日動）
陪席者：松室（防災科学技術研究所）、松本（〃）、倉谷（〃）、田代（〃）、小松原（セコム）、
増田（筑波大学）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) 2024年度シンポジウム〔10月18日開催〕について

遠藤副会長から、資料1に基づき趣旨等の説明があり、承認された。

(2) 巨大災害研究会との合同シンポジウム〔2月28日開催〕について

遠藤副会長から、資料2に基づき現在の検討状況の説明があり、承認された。

(3) キャリアマッチングデー開催報告及び次回について

遠藤副会長から、資料3に基づき開催報告があった。

- ・当初予想を上回る52名の学生が参加
- ・個別相談も約半数の学生が参加
- ・次年度6～7月頃の開催に向けて早期計画を進める

関連して、次のコメントがあった。

甘利副会長・小松原氏（セコム）：

個別相談に来た学生は、関心度が高く研究内容も親和性が高かった。うち2名がインターンシップに参加することとなった。

松本氏（防災科研）：

防災科研としても新しい取り組みとなった。学生の反応も非常に良く、具体的にインターンシップの受け入れについて検討を始めたところ。

岡島委員（筑波大）：

リスク・レジリエンス以外の学位プログラムからも参加があり、参画機関への関心の高さを改めて認識することができた。また、他の就活イベントと比べ、個別相談で学生が一つのブースに長く留まり、熱心に話を聞く姿が印象的だった。

(4) 令和6年度下半期の活動計画について

遠藤副会長から、資料4に基づき今後の活動計画について説明があった。

- ・10月18日（金）12:30-13:30 第29回幹事会（パワーランチ）
14:00-16:30 シンポジウム（会場：秋葉原コンベンションホール）

- ・ 11 月 28 日（木） 13:30-16:30 第 17 回運営委員会（会場：電子航法研究所）
- ・ 2 月 28 日（金） 14:00-16:30 巨大災害研究会との合同シンポジウム
（会場：関西大学梅田キャンパス）

(5) その他

- ・ 筑波大学マレーシア校との連携について
遠藤副会長から次の情報共有があった。
 - ・ 筑波大学マレーシア校（学際サイエンス・デザイン専門学群）が 9 月開校
 - ・ コンソーシアムの海外拠点の一つとして防災分野の連携について検討予定

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 令和 6 年度実施入試（7 月期）の結果について

岡島委員から、7 月期入試の結果について報告があった。

- ・ 博士前期課程（推薦、R7 年 4 月入学）：14 名合格、うち 1 名が協働大学院教員を志望
- ・ 博士後期課程（R6 年 10 月入学）：5 名合格、うち 2 名が協働大学院教員を志望

続いて、岡島委員から、8 月期入試の出願状況（速報値）について報告があった。

- ・ 博士前期課程（R7 年 4 月入学）：38 名出願
- ・ 博士後期課程（R7 年 4 月入学）：8 名出願

(2) 「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム活動報告 Vol. 2」発刊について

岡島委員から、別冊資料に基づき報告があった。

- ・ 活動報告 Vol. 2 を 7 月末に発行予定
- ・ 甘利副会長による巻頭言、及びコンソーシアム座談会の記事を掲載

(3) その他

特になし。

以上

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第29回幹事会議事要旨

- 1 日 時：令和6年10月18日（金）12時30分～13時10分
- 2 場 所：秋葉原コンベンションホール 5階 5A会議室
- 3 出席者：寶（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島
オブザーバー：林（東京海上日動）
陪席者：松室（防災科学技術研究所）、松本（〃）、小松原（セコム）、
大貫（筑波大学）、増田（〃）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) 総会・運営委員会・幹事会の体制変更について

遠藤副会長から、資料1に基づき次の報告があった。

- ・筑波大学の石濱氏（コンソーシアム事務局長）が所属先退職に伴い委員を退任
- ・事務局長の補充はせず、引き続き筑波大学システム情報エリア支援室が事務支援を行う

(2) 巨大災害研究会との合同シンポジウム〔2月28日開催〕について

遠藤副会長から、資料2に基づき趣旨等の説明があり、次のとおり確認された。

- ・防災科研でパネルコメンテーター候補者1名を選出し、11月末までに事務局に連絡
- ・寶会長は業務の都合により欠席

(3) 第2回キャリアマッチングデー〔次年度開催〕について

遠藤副会長から、資料3に基づき次の説明があった。

- ・第2回の実施日程・内容検討のため参画機関にアンケートを実施
- ・11月下旬〆切とし、次回の運営委員会（11月28日）で結果を報告

(4) コンソーシアムWebサイトの改修について

遠藤副会長から、今年度中に予定しているWebサイト改修について次の説明があった。

- ・外部向けサイト：写真や動画等の積極的活用によりWebでの情報発信を強化する
- ・内部（参画機関）向けサイト：現行より簡素化し利便性向上をはかる

(5) その他

甘利副会長から、コンソーシアムと日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）の連携強化について提案があり、事務局にJNSAの加入方法等を情報提供のうえ、検討することとなった。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 協働大学院教員候補者の推薦について

岡島委員から、資料 4 に基づき、電力中央研究所の山本博巳教授の今年度末退任に伴うエネルギーマネジメント分野の協働大学院教員候補者の推薦について説明があり、原案のとおり、電力中央研究所へ推薦依頼を進めることとなった。

(2) 令和 6 年度実施入試（8 月期）の結果について

岡島委員から、8 月期入試（令和 7 年 4 月入学）の結果について報告があった。

- ・ 博士前期課程（一般・社会人特別選抜）：30 名合格、うち 1 名が協働大学院教員を志望
- ・ 博士後期課程（社会人特別選抜）：7 名合格、協働大学院教員の志望者はなし

(3) その他

特になし。

以上

ヘッダーは常にウィンドウ上部に固定されます

RESILIENCE
FRONTLINE世の中を、**リスク**で診る。
レジリエンスで、**未来**を見る。

近年の不安定な社会情勢により、従来のリスクマネジメントでは対応が難しい事態が増え、新たな概念「レジリエンス」が注目されています。これは「不測の事態に柔軟に対応し、機能を維持・回復する能力」を指します。こうしたニーズに応え、企業や研究機関、大学が協力して「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム」が設立されました。このコンソーシアムは、リスク・レジリエンスに関するセミナーや研究活動を行い、筑波大学の学位プログラムを運営して、国際的な人材育成を目指しています。

複数枚の画像を使った動画

スクロールと連動して移動する

世の中を、**リスク**で診る。
レジリエンスで、**未来**を見る。

近年の不安定な社会情勢により、従来のリスクマネジメントでは対応が難しい事態が増え、新たな概念「レジリエンス」が注目されています。これは「不測の事態に柔軟に対応し、機能を維持・回復する能力」を指します。こうしたニーズに応え、企業や研究機関、大学が協力して「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム」が設立されました。このコンソーシアムは、リスク・レジリエンスに関するセミナーや研究活動を行い、筑波大学の学位プログラムを運営して、国際的な人材育成を目指しています。

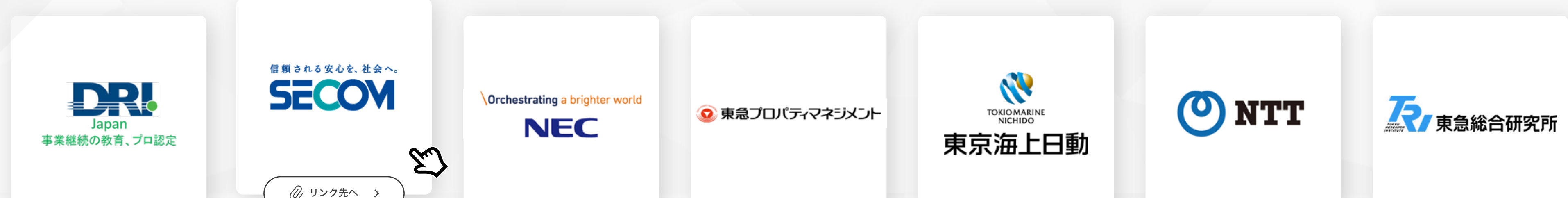


01

参画企業・研究機関・大学

平成 29 年 12 月、11 の企業・研究機関・大学が「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム」を設立しました。

従来のリスクマネジメントを包含する概念として注目されているレジリエンスの分野において、世界の知の拠点と教育の中核となる活動を推進します。



02

お知らせ・イベント

カテゴリーによってラベルの色を変更

イベント

NEW

レジリエンス研究教育推進
コンソーシアム

2024.12.10
この文章はダミータイトルです。
この文章はダミータイトルです。
この文章はダミーです。文字の大きさ、
量、字間、行間等を確認するために ...

お知らせ

レジリエンス研究教育推進
コンソーシアム

2024.12.7
この文章はダミータイトルです。
この文章はダミータイトルです。
この文章はダミーです。文字の大きさ、
量、字間、行間等を確認するために ...

その他

レジリエンス研究教育推進
コンソーシアム

2024.12.7
この文章はダミータイトルです。
この文章はダミータイトルです。
この文章はダミーです。文字の大きさ、
量、字間、行間等を確認するために ...

イベント

レジリエンス研究教育推進
コンソーシアム

2024.12.7
この文章はダミータイトルです。
この文章はダミータイトルです。
この文章はダミーです。文字の大きさ、
量、字間、行間等を確認するために ...

マウスホバーで色が変わります

VIEW ALL >

03

コンソーシアムについて

毎年総会や運営委員会、シンポジウムを開催し、COVID-19 対応や DX 社会の実現など、時代のニーズに応じたテーマに取り組んでいます。また、キャリアマッチングデーなど企業や大学が協力するイベントも積極的に行い、実践的な知見を広げる機会を提供しています。



コンソーシアム概要

VIEW MORE >



会長挨拶

VIEW MORE >



沿革

VIEW MORE >



活動履歴

VIEW MORE >



レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

事務局

〒305-8573 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学システム情報エリア支援室

© 2017 - 2024 Resilience Research and Education Promotion Consortium.

広報用のスペースです
スクロールと連動し、右下に固定されます

第4回 シンポジウム開催予定

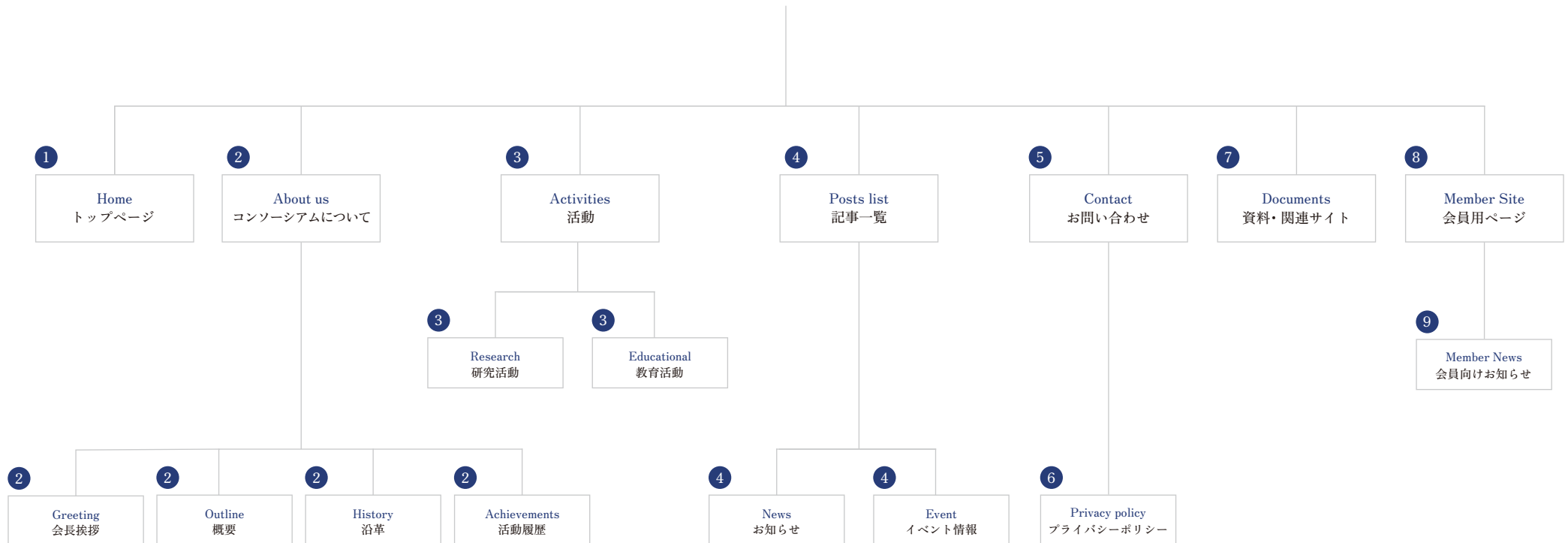
2021年10月13日(水) 13:30~16:40

参加申込 >



レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム メインサイト



令和6年11月6日

国立大学法人筑波大学 システム情報系
系 長 鈴 木 健 嗣 殿

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
会 長 寶 馨

協働大学院教員候補者の推薦について

令和7年4月1日付けの協働大学院教員候補者を下記のとおり推薦します。

記

所属・役職： 一般財団法人電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部
 ENIC 研究部門・上席研究員
氏 名： 上野 剛

以 上